

平成29年 12月 4日

大山町議会議員 杉谷 洋一 様

議席番号 6 番

大杖 正彦



印

一 般 質 問 通 告 書

次のとおり通告します

(質問予定時間 60分)

質 問 事 項 と 要 旨	質問の相手
1) 大山町役場の職場風土とコンプライアンスについて 議会は、昨年10月の新聞報道に端を発したいわゆるNPO問題を追求し、様々な職場業務体制の不備、一部職員の法令遵守・規則違反などを追求・指摘した結果、補助金返還・職員の処分などに繋がったが、その後も公共工事における不適切事務など未だに慣例による規則違反遂行が漫然と行われている。 H29.8.24. 大山町不適切事務改善委員会報告が出されたが、その内容はNPO法人との業務委託に関する不適切事務の要因と改善に向けた検討内容が中心であり、風通しの良い職場風土作りの改善・改革の内容に欠けている。 本町に限ったことではないが、これから取り組むべき必要なポイントは職場風土の改善・改革であると思う。これは議会も執行部も他町村共に横並び意識があり難しい課題であるが民間企業では、強いリーダーシップによって改善・改革が非常にスピーディーに進められます。これは大山町を変えることを公約に掲げた竹口町長のリーダーシップに期待するところです。 副町長が不適切事務改善委員長としてスタートした取り組みは、大変残念にもご不幸による副町長不在で停滞してはいないか、その後の体制・取り組みはどう進められているか質します。 ① 大山町不適切事務改善委員会の取り組みの実績とその成果。 ② 副町長不在後 の委員会体制と活動実体は。 ③ 竹口町長 の理想とする職場風土とは。 2) 大山開山1300年祭と大山の観光施策について 町長の選挙公約である「町民一丸となった大山開山1300年祭の成功」、そして「開山1300年祭」実行委員会総会での挨拶で”一過性に終わらせてはならない”と観光振興に強い意思を示された。 県主導で1市3町が協力して取り組む「大山開山1300年祭実行委員会」は様々なイベントや催し物を企画実行していますが、本町内では盛り上がり欠けている。議員と語る会でも「何が行われ、どうなっている？」という声が聞かれた、つまり大山町のリーダーシップの動きが見られないと言う声です。 先日 議会視察研修先の長野県野沢温泉スキー場では、この2年で年間約10万人増加した入り込み客数中、半数以上が外国人という報告があった。 外国人対策については、山陰インバウンド機構が積極的な取り組みを企画実行している。又 環境庁も国立公園満喫プロジェクトの取り組みで、景観の維持そしてトイレなどの施設整備に加えインバウンド活動も行うと発表しました。 今、インターネットSNSを通じ外国人に山陰、鳥取県、大山の 魅力が発信されており、実際に大山を訪れる外国人観光客は目に見えて増えている。 ① 実行委員会で挨拶された一過性で終わらせないため、町長はどのように考えているか。 ② インバウンド対策について、山陰インバウンド機構や県との連携、本町独自の考え・施策について。 以上 お伺いします。	町長

受附

第 5 号

29.12. 4

大山町議会

(注) 的確な答弁が得られるよう、質問の要旨は具体的に記載すること。

質問の相手は、町長、教育委員長、農業委員長、選挙管理委員長、監査委員等とする。